

ダイバーシティ通信

2025
3月号

振り返り

ダイバーシティ啓発研修（オンライン）



熊平美香さん

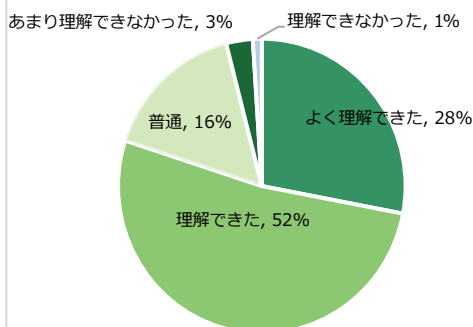
2024年度の教職員対象ダイバーシティ啓発研修では、熊平美香さん（昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリアカレッジ学院長）を講師に迎え、「ダイバーシティと対話」をテーマにお話しいただき、460名の教職員の方々にご視聴いただきました。

多様性の基礎、対話の基礎、多様性の心得が主なテーマでしたが、豊富な資料をご提供いただき、ポイントを押さえた内容になっていました。自分という“多様性”を理解することが多様性（ダイバーシティ）を包摂するために大切であることや、DE&I（Diversity, Equity, Inclusion）に加え、Belonging（自分らしく生き生きと働ける居場所を感じられること）もまた重要な概念として捉えられるようになっていること、組織内において心理的安全性を向上させることが重要であること、対話では他者に対する評価判断をいったん保留する必要があること、無意識の偏見とメンタルモデルの関係性など、あらためて考えさせられることも多くありました。また、多様性は性別や人種や障がいの有無などの“カテゴリー”でのみ考えがちですが、基本はあらゆる“人対人”の関係性において意識すべき概念なのではないかと思いました。以下、皆様からお寄せいただいた感想の一部を共有させていただきます。

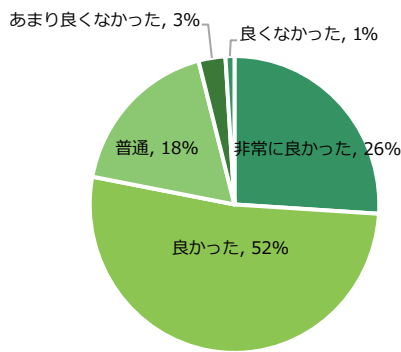
「今回の研修で、自分自身も多様性の一部であるというという視点を提供いただき、最も大きな気づきがあった。」
「このセッションを通じて、前提となる認知の違いを理解することが重要だと考えるようになった」
「フラットに対話することを、日々の業務や私生活に取り入れられるように心がけていきたい。」
「分かっているけど、実行できるのは、心に余裕があるときに限定される場合が多い。」
「これからの社会が求める多様性や包摂性とは少しニュアンスが違うのではないかと感じました。多様性の尊重は必ずしも innovation に繋がらなくても良いのではないのでしょうか？」
「大学職員向けなので比較的理論的な説明が多かったように思うが、対象を絞ってケーススタディを増やしていただく形でもよいように思う。」
「カタカナの用語が多かったので、可能であれば分かりやすい表現に直してほしい。」



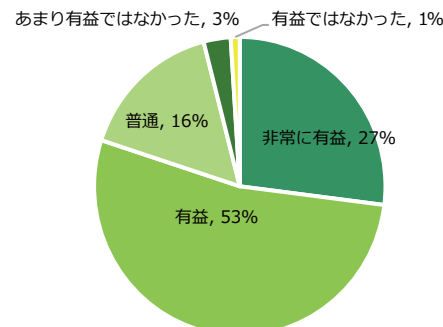
アンケート結果



研修内容は理解できましたか？



研修講師は良かったですか？



研修資料は有益でしたか？

ダイバーシティ推進協力員からのメッセージ(第3弾)

平山 貴大 (国際課 国際交流係)

国際課では、様々なバックグラウンドを持つ留学生と日常的に関わっています。それぞれの多様性を理解し尊重するよう心がけながら、本学での留学生活が有意義なものとなるよう、学習面や生活面での困りごとを解消するために、適切なサポートを提供していきたいと考えています。

林 金太郎 (情報化推進課 情報化推進係)

情報化推進課は、大学のIT部門として、みなさんが安心してITを活用できる環境づくりを心がけています。

これからも誰にとっても使いやすく、学びやすいサービスを提供できるよう、技術やニーズの変化にも柔軟に対応しながら取り組んでいく所存です。

井上 祐里 (企画管理課 企画・研究支援係)

企画・研究支援係では、研究の支援やその広報活動を通じ、学内外のさまざまな立場や考え方、背景をもった方に出会います。その中で、自分自身も多様性の一部であるということを忘れず、相手の話に耳を傾け、フラットに対話することを心がけていきたいと思えます。

竹内 七海 (地域・学生課 学生係)

学生係では学生と接する機会が多く、対話を通して多様性について学ぶこと、支えあい・認め合いの重要性を感じることがあります。

ダイバーシティ推進協力員として、全ての業務において人それぞれ多様な背景を持っていることを忘れずに、携わっていくように心掛けたいです。

レビュー

ダイバーシティ週間

2024年12月4日～10日はダイバーシティ週間でした。

北方・ひびきの両キャンパスには、昨年に引き続き、障がい者の方々によるアート作品が展示されました。今年度は皆様からの投票で人気の高かった作品を優先的に展示しましたが

ご自身のNo.1は展示されていませんか？

北方キャンパス地下パーラー前では、北九州市内の福祉事業所の方々が手作りの小物やクッキー、菓子パンなどを販売されました。学生さんたちも日常とは異なる風景に足を止め、動物のブローチを厳選していました。教職員の方々にもたくさん買っていただきました。

